

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1471900785	事業の開始年月日	平成18年4月1日	
		指定年月日	平成26年8月1日	
法人名	社会福祉法人湘南福祉協会			
事業所名	グループホームなごみ			
所在地	(〒239-0807) 神奈川県横須賀市根岸町4-10-10			
サービス種別 定員等	<input type="checkbox"/> 小規模多機能型居宅介護 <input checked="" type="checkbox"/> 認知症対応型共同生活介護	登録定員	名	
		通い定員	名	
		宿泊定員	名	
		定員計	9名	
		ユニット数	1ユニット	
自己評価作成日	平成26年7月24日	評価結果 市町村受理日	平成26年9月22日	

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先	
----------	--

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

法人が病院ということもありDrの往診やNsによる健康管理ができています。処方箋を地域の薬局にお願いしてあり一包化による薬の管理や変更があった場合の細かい連絡等、連携が取れている。職員のスキルアップを計るため、積極的に研修に参加してもらっている。特に認知症専門の研修は順番に参加するよう勤務を調整している。食事の内容も特にメニューがないので家庭と同じように職員がその日の献立を作っている。家族にも食事の内容を知ってもらうため、年に1回、「なごみ祭り」と称して職員が日々作っている内容の食事会(バイキング方式)を行っている。音楽ボランティアや日舞ボランティア等来所されるのでその時は家族も一緒に観覧されることも多い。

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	ナルク神奈川福祉サービス第三者評価事業部		
所在地	神奈川県横浜市西区南浅間町8-22-207		
訪問調査日	平成26年8月28日	評価機関 評価決定日	平成26年9月18日

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点(評価機関記入)】

【事業所の優れている点】
 ◇法人の湘南病院が協力医療機関であり、内科医が2週間ごとに往診している。医療連携体制加算を取得して、看護師・医師とは24時間の連絡体制を確保しており、又、看護師が週1回事業所を訪問して利用者の健康管理に当たっているため利用者・家族の満足度が高い。
 ◇職員は、病院をはじめ法人内の医療部門や介護事業所の機能を活用した外部研修に参加し、特に「認知症介護実践研修」には、毎年2名ずつ参加してスキルアップを図り効果を上げている。
 ◇町内会に加入しており、地域の盆踊りや防災訓練には利用者も職員と一緒に参加して地域と交流している。

【事業所が工夫している点】
 ◇玄関や居間等に生花を飾り、なごやかな雰囲気を醸し出している。
 ◇食事メニューは予め作らず、職員が利用者の希望を聞き家庭と同じように食材を確認して調理している。
 ◇職員の定着率が高く利用者とは顔なじみで、家族のように接し支援している。職員が利用者と離れていても、絶えず利用者の動向に留意し、常に利用者 に密着して支援に当たっている。

【地域密着型サービスの外部評価項目の構成】

評価項目の領域	自己評価項目	外部評価項目
I 理念に基づく運営	1 ~ 14	1 ~ 7
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	15 ~ 22	8
III その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	23 ~ 35	9 ~ 13
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	36 ~ 55	14 ~ 20
V アウトカム項目	56 ~ 68	

事業所名	グループホームなごみ
ユニット名	ー

V アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○	1, ほぼ全ての利用者の
			2, 利用者の2/3くらいの
			3, 利用者の1/3くらいの
			4, ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1, 毎日ある
			2, 数日に1回程度ある
			3, たまにある
			4, ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目：36, 37)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている。 (参考項目：28)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない

63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ全ての家族と
			2, 家族の2/3くらいと
			3, 家族の1/3くらいと
			4, ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ毎日のように
			2, 数日に1回程度ある
			3, たまに
			4, ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	○	1, 大いに増えている
			2, 少しずつ増えている
			3, あまり増えていない
			4, 全くいない
66	職員は、生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	1, ほぼ全ての職員が
			2, 職員の2/3くらいが
			3, 職員の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての家族等が
			2, 家族等の2/3くらいが
			3, 家族等の1/3くらいが
			4, ほとんどいない

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	毎月実施されている職員会議の中で話し合いをもうけている。	・法人の理念「利用者の尊厳、介護と医療の協調、地域福祉の推進」と、事業所の理念「意思を尊重し助け合い、安らぎを実感できるホーム」を共に玄関に掲示し、毎月の会議で職員間で共有し、実践に活かしている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	利用者の体調や天候など考慮し地域の行事に参加するようにしている。 (盆踊り、地域防災訓練等)	・町内会に加入し、盆踊りや年2回の火災、地震、津波訓練に一部の利用者も参加し交流している。 ・フルート、ギター、ハンドベルや日舞のボランティアを受け入れ、町内の人々も見学に来ている。中学生が福祉体験で来訪している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議を通じて町内の方が情報の発信をしている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	行政や町内の方々との情報の共有により防災や日常生活の状況報告をしている。	・運営推進会議は、町内会長・相談役、民生委員、市職員、地域包括支援センター職員、家族が参加して2か月毎に開催している。 ・事業所の活動経過報告の後、防災訓練や感染症対策等で意見交換している。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	メールや直接赴き情報交換している。市の研修は積極的に参加している。	・市指導監査課とは、運営状況、運営推進会議日程等で日頃から電話やメールで連絡している。書類等を持参した折には、事業所の近況を伝え協力関係を築いている。 ・市主催の食中毒、虐待・抑制等の研修には職員が参加している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	徘徊のための離設行為の事故防止と安全面を考慮して玄関中扉は施錠している。	<ul style="list-style-type: none"> ・重要事項説明書等に、身体拘束はしない旨明記している。 ・法人で年1回身体拘束防止研修会には、職員が参加している。 ・日中、表玄関は開放し中扉は安全上家族の了解を得て施錠している。 	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	法人内にて開催される虐待防止の研修を全職員が受講している。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	必要に応じて研修を受けている。活用する機会がなく知識としては知っている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	家族の意向や不安なことをその都度聞き対応している。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	積極的に家族にも参加してもらっている。町内の行事に積極的に参加することで近隣の方々の理解をいただいている。	<ul style="list-style-type: none"> ・家族の来訪時には、利用者の近況を報告して意見交換している。 ・年に2～3回開催する家族会で意見、要望を聞き、運営に反映している。食事内容を知りたいとの声に応え、毎年事業所祭りでバイキングの食事会を開催している。 	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員会議で意見交換を行っている。日常業務の中でも随時聞くこともある。	・管理者は、職員が気軽に意見を言える雰囲気を大切にしている。 ・毎月の職員会議で意見や要望・提案を聴き、内容に応じて連絡ノートと一斉メールで全員に周知徹底している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	法人全体の就業規則に沿って勤務についている。		
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	積極的に研修に参加している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	GH協議会に入会しており、講義に参加したり交換研修を行っている。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	今までの生活暦を家族から聞き安心して生活ができるようにしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族からの相談ごとにもいつでも傾聴している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入所時に重要事項説明書を元に意見交換している。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	残存機能が維持できるよう支援している。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会はいつでも来てもらえるように伝えている。来所の際は本人の近況報告等行っている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族に協力・要請している。友人や近所の方なども面会に来ていただいている。	<ul style="list-style-type: none"> ・友人や近所の方に訪ねて来てもらい、お茶でもてなし関係の継続を支援している。 ・利用者の電話をの取次ぎ、暑中や残暑見舞いを出すのを支援をしている。 	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士のトラブルを避け、孤立しないようにしている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所されてからも相談が来ている。同法人内の施設に入所した場合は情報が入りやすいが、他施設の場合は途切れてしまうことが多い。		
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	意思疎通の出来ない利用者が多く、本人の様子観察をしながら対応している。時には家族にも情報の提供をしたもっている。	・コミュニケーションが困難な方には、イエス、ノーで答えてもらったり、仕草や表情を観察し読み取り、又、家族の意見も参考にしている。 ・情報はケア記録、連絡ノートに記載して、会議等で職員間で共有している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	各々の生活歴を把握し、今までの生活環境に近づけることが出来るよう努力している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	介護者同士の情報の共有ができています。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	個々のケアのあり方、職員の思いも意識している。Dr・Nsと話し合い、家族の意向を確認している。	・医師、看護師の往診時に状況を話し合い情報を共有し、家族の意向を確認して、毎月の職員会議で介護計画を作成している。 ・計画は家族の希望も入れて3か月毎、変化時はその都度見直しをしている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護者同士共有し、活かされている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	多機能化は現時点では不可能。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	本人の希望を理解した上で家族にも協力してもらい施設内だけでなく地域でも楽しむことができると思う。		
30	11	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	歯科医は毎週、内科医は2週間に1回と細やかに診察をしてもらっている。必要があれば検査指示など出され健康管理が出来ている。往診時以外でもDrとの連絡が密に出来ている。	・全員が協力医をかかりつけ医としている。歯科が毎週、内科が2週に1回往診があり、看護師・医師とは24時間の連絡体制がある。 ・協力医以外の特定の医療機関には、家族が対応するが必要に応じ職員も同行している。	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週1回の看護師勤務により情報の共有に徹し細かい指示を得られている。24時間連絡体制が整っており、利用者の急変時でもあわてることなく対応している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院先は特例を除き同法人の病院となっているため、スムーズに情報交換、指導、相談を行っている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化した場合はDrの指示により同法人の病院へ搬送されているが、なるべく事業所で過ごせるようNSも含め日常健康管理を行っている。現状は、看取りを行うような入居者はいない。	<ul style="list-style-type: none"> ・入居時に家族には、常時医療行為が必要になると医師の指示で入院になる旨説明し、理解を得ている。 ・重度化した場合は、「重度化対応指針」に則り対応し、状況に応じて入院して貰う用意ができています。 	<ul style="list-style-type: none"> ・現在看取りを想定する利用者はいませんが、将来に備えて、職員には重度化や看取り時の対応に関する研修の実施が期待されます。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	全職員に対し、緊急対応マニュアルを配布している。会議などで、初期対応の仕方をNSより指導してもらっている。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	町内会の防災訓練に参加することとは別に施設内でも避難訓練の実施をしている。運営推進会議等で災害時の協力を要請している。	<ul style="list-style-type: none"> ・避難訓練は年2回、うち1回は消防署が立ち合い、夜間想定訓練を行っている。町内会長からの連絡で、近隣住民も参加して協力、支援を得ている。 ・非常用の食糧・水を3日分と排泄用品等を備蓄している。 	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入所前からの個人情報ファイルは事務所にて一括管理している。職員は必要に応じて管理者に声をかけ持ち出さないようにしている。	<ul style="list-style-type: none"> ・個人情報保護規定があり、新入職員は全員研修を受講し、各人誓約書を提出している。 ・毎年職員2名が、認知症実践者研修を受講して、プライバシー保護について学び、利用者への接遇にも配慮している。 	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	声かけにより本人の思いや希望を聴きだす努力をしているが、訴えることができない利用者が多いために把握することが困難だが、閉じた質問などで自己決定ができるように努力している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	長期の入所になると無欲になる方も増えてくるため、出来る限り本人のペースに合わせた支援をしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	個々の好みが叶えられるように努力している。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	高齢化・重度化により一緒に準備等にはできないが、食事は利用者の好みを取り入れながら提供している。食事の時は音楽を聴きながらゆったりと過ごしている。	<ul style="list-style-type: none"> ・利用者一人一人の誕生日に因んだ食事や季節の行事食、夏まつりのバイキングと、利用者の好みをもの献立で変化に富んでいる。 ・職員と一緒に、慣れた自分の箸と湯呑で雑談しながら、笑顔で食事を楽しんでいる。 	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	バランスのとれたメニューを提供している。水分摂取量にも注意している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後に必ず口腔ケアを行っている。義歯の方は義歯を外し専用のブラシを使用してもらい、就寝時は消毒を行っている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	排泄パターンを細かく把握している。排泄感覚がない場合は時間を見計らって誘導している。失敗したときは本人が傷つかないように処理している。	・利用者の排泄リズムを職員間で共有し、声掛けでトイレに誘導している。寝たきりの状態で入所した利用者が、職員のきめ細かい誘導で、トイレでの座位を保てるようになった事例もある。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	下剤の調整や食事の工夫により便秘を防いでいる。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	週三回の入浴を行っているが、状況に応じてこの他にも随時行っている。Drからの指示により一般浴、シャワー浴等個別に対応している。	・入浴は利用者の気持ちを尊重し、入浴を拒む方には時間帯を変え、担当職員を代えて対応している。 ・入浴中に、利用者の想いや思い出など聞き出すこともあり、入浴時のコミュニケーションを大切にしている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	室内温度の調整を細かく行っている。入眠前に暖かい飲み物の提供もしており、気持ちよく眠りについてもらっている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	往診の都度薬の内容をDrが確かめている。薬の内容が変わったときは副作用の有無の観察を怠らない。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	レクや制作活動を通して楽しんでもらっている。天候に応じて散歩やドライブなどで気分転換を行っている。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	介護度に差があり、個別の対応が多くなる中、なるべく外に出られるようにしている。家族の協力もあり、町内のイベントに参加できるようにしている。	<ul style="list-style-type: none"> ・利用者によっては、家族の協力で墓参りや外食、一時帰宅などを実施している。 ・ときには近隣の公園や小学校への散歩を実施するほか、食堂に面するベランダや庭で外気浴を行っている。 	・利用者の歩行能力の維持、気分転換などの目的で、天候の良い日の外出支援を定例化されることが望まれます。
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	個人での金銭管理は出来ないためお小遣い等は施設で管理している。物盗られ妄想や混乱の原因にもなるために家族にはお金は持たせないようお願いしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	利用者宛に届いた手紙は本人に渡しているが、返事を書くことが出来ないためにそのままになることが多い。電話も自らかけられることが出来ない。個人宛に家族から掛かってくることもあるが、電話で話をすることも出来なくなっている人が多い。（電話の認識がない）		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関やリビングに季節の花（生花）を飾り季節感を感じてもらっている。女性の職場及び生活空間らしく細やかな気配りを実施している。	<ul style="list-style-type: none"> ・食堂中心の居間で、2台のソファとテレビ、雑誌棚が置かれ、騒音はなく、利用者はゆったりと過ごしている。 ・壁面は利用者の作品、棚には生花を飾り、季節を感じることができる。 	
53		○共用空間における一人ひとりの居場 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	日内変動があるためその時々で工夫をしている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入所の際は馴染みのものを持ってきてもらうようにしている。	<ul style="list-style-type: none"> ・居室にはテレビや家族の写真、人形など、利用者と家族の好みに応じて、馴染みのものを持ち込んでもらっている。 ・清掃は毎日職員が行い、清潔が保たれている。 	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	安全で出来るかぎり残存機能を低下させないように努力している。		

目 標 達 成 計 画

事業所名 グループホームなごみ

作成日 平成26年9月21日

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目 標	目標達成に向けた具体的な取組み内容	目標達成に要する期間
1	33	現在、看取りを想定する利用者いないが、将来に備えて職員の看取り対応に関する研修の実施	重度化や看取りに関する知識を職員が理解できるようにする。	外部研修や看護師による自施設研修を行う。	3ヶ月
2	49	利用者の歩行の維持、気分転換などの目的で、天候の良い日の外出支援の定例化	気分転換を図り且つ歩行の維持を保つ。	現在も気分転換を図る意味で外出支援をしているが、拒否される方や体調不良の方もいるため全員でということが困難になっている。個別支援での対応として取り組みたい。	1ヶ月
3					
4					
5					

注) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。